

## 児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2022年 2月 5日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」修学院校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	3	個室利用の場合はローテーション表を作成し特定児童のみ個室を利用することを避けている。	同時4支援となると厳しいと感じる。机・椅子が適切な物が必要
	②	職員の配置数は適切である	6	0	教員や保育士など得意分野に偏ることなく幅広い療育を行っている。	人数を生かしているか疑問が残る。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	2	利用する児童に合わせて支援スペースの広さや配置を変えている。	片づけは出来ているが支援スペースの物の配置を見直す必要がある。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	1	コロナ禍ということもあり支援毎の消毒を心がけている。	掃除は出来ているが上記同様支援スペースの配置を見直す必要あり。
業務 改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	2	校舎ミーティングで利用者の情報共有の時間を設け職員で共有している。	意見は通りやすいが総意とは限らない。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	児童が一人で来校・下校する児童には保護者様へ手紙だけでなく電話で伝えることを意識している。	余裕のある回収期限と口頭説明を行っているが回収率が低い。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	3	評価表に書かれていた保護者様からの意見を共有している。	HPで公開していることを職員が把握できていない。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4		第三者というのが具体的に分かっておらず回答できない職員が多い。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	月一回の定例研修に加え、京都市から案内される研修には積極的に参加している。	希望した外部研修に行けるよう担当変更など臨機応変に対応出来るようにしたい。
適切 な	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	1	一年に一回のアセスメントを実施しモニタリングと合わせて支援計	タブレットを活用したアセスメントツールの活用が行えていない。

支援の提供				画の見直しに努めている。		
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	児発専用のアセスメントツールを活用している。またエコマップを使い児童のより良い発達に生かせる資源を把握している。	アセスメントツールの内容が難しく保護者様から疑問を頂くことが多い。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	2	利用者の現状や家族からの要望を把握し支援内容を決定している。	地域支援の項目が抜けている。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	支援内容だけでなくその時々の子どもの状況や様子に応じて保護者と相談の上、支援内容を臨機応変に変更している。	引き続き現在の状況を継続していく。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	3	児童の状況に応じて適宜行っている	週6移行なども踏まえ担当外の指導員でも安定した療育が実施できるように活動プログラムを考えていく。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	その時々の子どもの様子に応じて臨機応変に対応している。	引き続き継続していく。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	3	3	個別療育で難しかった課題を小集団で提示してみるなど個別・集団を活用している。	基本が1対1のためその場で適宜切り替えることはできていない
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	3	他の職員の協力が必要と考えられる利用者については必ず共有を行っている。	校舎ミーティングの時間はあるが利用者の利用状況によっては毎日必ず実施できるとは限らない。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	3	振り返り自体は翌日の校舎ミーティングで実施している。	校舎ミーティングの時間はあるが利用者の利用状況によっては毎日必ず実施できるとは限らない。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	記録だけでなく校舎ミーティングで共有し他の職員からの助言・提案も参考にしている。	連続して療育が続くとその日のうちに支援記録を書く時間がない。

	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	1	半年に一回のモニタリングを実施し支援計画の見直しを行っている。	モニタリング記録の提出遅れや実施がズレることがたまにある。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	2	担当者会議だけでなく園訪問なども担当指導員が実施している。	コロナ禍のため実施が難しいことが多い。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	1	5		現時点で該当する児童がいないため実施していない。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	2		現在該当者がいないため実施していない
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	4		現在該当者がいないため実施していない
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	保護者から要望があった時は積極的に連携を図っている	コロナ禍ということもあり実施が出来ないことが多い
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	保護者から要望があった時は積極的に連携を図っている	コロナ禍ということもあり実施が出来ないことが多い
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	3	市の児童発達支援センターの研修は受講している。	他事業所からの助言研修は受けていない
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	6		現状、実施していない
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	6		現状、実施していない
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	日々のFBの時間を大切にしている。	FBでは伝えきれない場合があり事業所内相談などを活用していく
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	4	児童の状況に応じて実施している	具体的なプログラムがないため各指導員に応じて異なる支援となる
保護	㉜	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1	見学时・契約時に必ず行っている。	全職員に実施していることを周知していく。

者 へ の 説 明 責 任 等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	1		具体的な内容やガイドラインについての周知が行えていない。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	日々のFBや事業所内相談を実施し保護者様の悩みに寄り添っている。	保護者の来校が難しいケースの助言・支援方法を模索する必要がある。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4	小集団療育の時間に保護者の交流の時間を設けている	参加される保護者が固定化されている。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	保護者からの相談があり次第、児行訴内相談を実施、職員間で情報共有を行っている。	今後も継続。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	1	5		会報は発行していないがHPでブログを掲示している。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	個人情報の保管場所を常に施錠している。	引き続き継続。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	児童の考えや行動の理由が分からないと悩む保護者に対して専門的見地から助言を行っている。	引き続き継続
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	6		実施しておらず。
非 常 時 等 の 対 応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	0	見学対応・契約時に保護者へ説明している。	保護者への周知が不足している
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	毎月様々なシチュエーションで訓練を実施している	保護者への周知が不足している
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0	最初の受付時に必ず確認をしている。	てんかん発作などが発生した時の対応方法を職員間で確認しておく
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	4	アレルギーの有無については確認を行っている	飲食物の提供を行っていないため該当なし。

④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	些細なケースでもヒヤリハット報告を作成・共有している。	引き続き継続。
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	1	年に一回の研修を実施している	引き続き継続
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0	契約時に必ず説明を行っている	引き続き継続

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

## 児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2022年 2月 5日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」修学院 校

保護者等数（児童数）：15 回収数：10 割合：70%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	7	3	0	0	パーティーションを倒さないか心配	支援前に児童と約束をしたり、指導員同士で気を配っている
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	10	0	0	0	特になし	職員の資格や経験を活かしより良い療育を考えていく。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	10	0	0	0	清潔ですっきりして居心地の良い空間	今後も継続していく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	10	0	0	0	特になし	今後も継続していく。
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	10	0	0	0	特になし	今後も児童・保護者に寄り添っていく
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7	0	0	3	特になし	周知出来ていないケースがあり、周知を行っていく。
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	8	0	0	2	特になし	支援計画に沿った療育だけでなく、その時々の利用者の様子や状況に応じて支援内容を臨機応変に対応していく。
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	10	0	0	0	子どもの興味のある物を使いながら楽しく新しいプログラムを考えている	今後も継続

保護者への説明等	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	0	4	4	機会はないが必要性を感じない	保護者からの要望があれば今後、検討していく
	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	10	0	0	0	特になし	今後も継続していく
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	8	0	0	2	特になし	今後も保護者様の理解と安心を得られるように分かりやすい説明を心がけていく。
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	3	1	1	4	特になし	ペアレントトレーニングについての周知が不十分と感じるため積極的にこちらから声をかけていくなど機会を設けていく。
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	10	0	0	0	特になし	引き続き情報交換共有を行いお子様のより良い成長を考えていく。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8	2	0	0	特になし	普段のFBだけでなく積極的にこちらから声をかけていくなど機会を設けていく。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	3	3	3	特になし	小集団など保護者交流の機会があることを周知していく。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	10	0	0	0	特になし	今後も児童・保護者様に安心して利用していただけるよう適切に対応していく。
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	10	0	0	0		今後も児童・保護者様に安心して利用していただけるよう適切に対応していく。
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	5	1	0	4	特になし	HPの周知が出来ていないため周知を行っていく。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	8	0	0	2	特になし	今後も安心してご利用いただけるよう個

								人情報管理を徹底していく。
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	3	1	0	6	特になし	保護者周知が行えていないので改めて周知に努める。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	0	3	7	0	特になし	ポスター掲示などでお知らせはしているが周知できていないため配置を変えるなど掲示方法を工夫していく。
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	8	2	0	0	通うようになってから子どもの変化を感じている。何より通所を楽しみにしている。	引き続き安心・安全に楽しく利用していただけるように環境設定など留意していく。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	10	0	0	0	特になし	引き続き安心・安全に楽しく利用していただけるように環境設定など留意していく。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。